

見て・聞いて・さわって 考えよう！ 「海遊館学習ノート」ができました 指導者用「指導の手引き」を付属

海遊館（大阪市港区）では、小学校中学年（3、4年生）を主な対象に、楽しみながら学ぶ体験を促進させる「見て・聞いて・さわって 考えよう 海遊館学習ノート」を作成しました。体験学習の一環として学校単位で海遊館を見学する子どもたちに“理科的に観察することの楽しさ”、“自然と人間の関係を考えるきっかけ”、“科学の目を育む”体験を促進するためのツールとして、新学習指導要領の趣旨を踏まえて作成しています。海遊館での学習がより有意義になることはもとより、見学前、見学後の学校学習にも活用できるよう配慮しており、さらに、指導者のみなさまに活用していただける「指導の手引き」が付属していることも大きな特徴です。このような学校団体の見学をより有意義な学びの場として向上させる学習ツールの提供は、国内の水族館でも先進的な試みとなります。

海遊館学習ノートは、生物の種類ごとに写真と文章で観察ポイントを紹介し、子どもたちが見たり考えたりしたことを記入する学習支援ツールです。興味を持たせて観察を促し、理科的な見方や考え方を働かせられるよう、設問とデザインに工夫しました。これにより、思考力、判断力、表現力が育まれることを期待するとともに、学びに向かう力が身に付くことをねらいとしています。新学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導者のみなさまに使いやすいツールになるよう、園田学園女子大学人間教育学部教授で児童教育学科長の廣岡正昭先生、奈良女子大学附属小学校の杉澤学先生に監修・執筆していただきました。

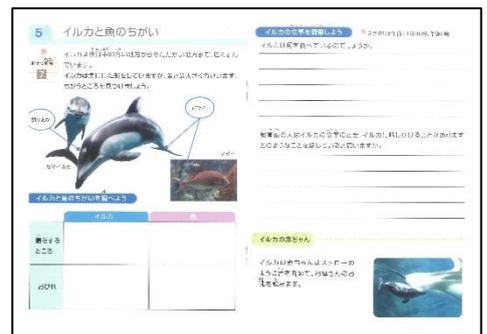
【見て・聞いて・さわって 考えよう 海遊館学習ノート】

- ◇学 習 ノート：A 5 判カラー刷、計 29 ページ
 - ◇指導の手引き：B 5 判 2 色刷、計 13 ページ
 - ◇主 な 生 物：アシカ・アザラシ、ペンギン、イルカ、ジンベエザメ、サメとエイなど
 - ◇価 格：100 円/冊（税込）
- ※ご利用は学校団体での見学に限定
※指導の手引きは、学習ノートを利用される指導者に無償配布

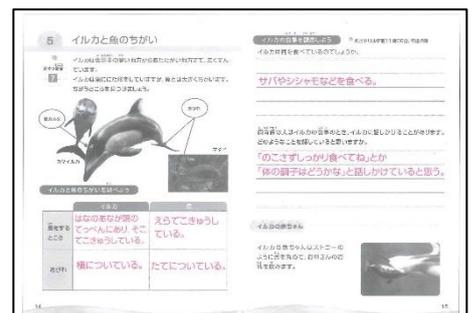
■■■■取材のご案内■■■■

2018年6月25日（月）10時～12時（予定）で、海遊館学習ノートを監修していただいた、奈良女子大学附属小学校の杉澤学先生が、小学校4年生の生徒67人を引率し体験学習を実施します。子どもたちが学習ノートを利用している様子や杉澤先生へのインタビューなど取材をしていただけます。

（取材のお問い合わせ）海遊館広報チーム：06-6576-5529



学習ノート「イルカと魚のちがい」



指導の手引き「イルカと魚のちがい」

【イルカ】
イルカは分類上ではクジラと大きな差異はありません。イルカとクジラを区別するのは体長で、体長4mより小さいものをイルカといいますが、大きいものをクジラと区別しています。イルカの祖先は、体に毛が生え、4本足で陸上を歩いていた。生活が水中へと変わっていく中で足が鰭へと変化し、鼻の穴も頭のてっぺんへと移動する進化をしました。イルカは、私たちと同じ哺乳類です。赤ちゃんはお母さんのおっぱいを飲んで育ちます。イルカのお母さんのおっぱいは、体のずっと下の方にあります。真ん中に乳腺管があり、その両側に2cmほどの溝があります。ここがおっぱいのあきかたで、赤ちゃんイルカは器用

に舌先を丸め、この溝に差し込んでお乳を飲みます。ということは、おしりの辺りに3本の溝があるのが、1本しかないのが雌になります。海遊館のイルカは、カマイルカという種類です。背鰭が草刈機のように見えるので、この名が付きました。餌は、サバやシラスです。餌をうえながら食欲やけががないかを飼育員は観察します。同時にイルカたちが自然の海でも見せる動作を使い、ときには、ジャンプをさせたり、ボールを使ってトレーニングも行ったりします。トレーニングで飼育員とイルカはコミュニケーションをとり、血縁検査や体温測定もイルカに負担をかけずに無理なく行えるようになります。